

## まちづくりの会で出された意見等

## 1. 「中心市街地地区復興まちづくりの会」(10月7日開催)における意見

## ■皆さんからのご意見・ご提案

検討の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討会メンバーについては、もっと幅広く人を集めていただきたい。</li> <li>・新川町や向町は被害が大きいので、被災が大きいところはそれなりに手厚くやっていただいた方がいい。</li> <li>・こういう会議の中に市議員の方も入って、総合的な意見を取り入れていくことはできないか。</li> </ul>
復興まちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山口川の支流の辺りの地盤が低い。そこも十分に考えて欲しい。</li> <li>・閉伊川防潮水門の整備とあるが、効果については疑問であり、お金がかかるだけではないか。</li> <li>・元の場所に建物を建てさせて欲しい。</li> <li>・中心市街地には緑や空間が無い。市役所の移転も含め、新しいまちづくりをしなければならない。</li> <li>・将来宮古市が観光都市を目指す場合、防潮堤が高くなってしまうと海が見えなくなり観光都市ではなくなる。</li> </ul>

## ■主な意見交換の概要

検討の進め方について	Q：中心市街地の検討会とは別に、商店街単位で行うことはできないか。	A：そういう会が商店街で催されて、市から担当が出向くということは可能です。
	Q：まちづくり検討会に若いメンバーを入れるということは考えなかったのか。	A：地区復興まちづくり便りというものを発行し、皆さんに検討会や地区復興まちづくりの会の内容をお伝えするとともに、広く意見を募集してくことから、若い方の意見も取り入れることができると考えております。
	Q：検討会ではどんな町にするかという検討が入っていない気がした。単に住む場所を聞くだけの検討会と感じられたがどうか。	A：どのような町にするかという議論は念頭に置いてやっていくものと考えています。また、今回の話とは別に市では復興計画を策定しており、全市的な議論や産業、経済等の分野別の話はそちらで検討することになります。
防潮堤等の施設について	Q：防潮堤を10.4mにすれば、津波は花輪橋まで遡上すると思う。防潮堤の効果については疑問を感じる。	A：防潮堤については、10.4mで整備をしても今回のような津波が来れば浸水しますが、被害はある程度少なくなると考えています。
	Q：防潮堤の高さに対して、アンケートでどういう高さが必要か聞かれたか。	A：アンケートによる防潮堤の高さに関する意向把握はやっていません。住民の方から高くして欲しいという要望は多く上がっており、それは県にお伝えしています。
復興まちづくりについて	Q：避難計画について、状況はどのようなになっているのか。	A：各地区の震災当時の避難行動について聞き取り調査を行っている段階です。
事業手法について	Q：土地の嵩上げについて、どの程度を考えているのか。	A：嵩上げについてはシミュレーションの結果により高さを決定していくため、現段階でどの程度かお答えすることはできません。
個別再建について	Q：可住地とされた部分では、支援金以外に個人に対する補助はいくら出るのか。	A：現段階では被災者生活再建支援金以外の支援制度はありません。

## 2. 「地区復興まちづくり便り」に関する意見

- (1) 「地区復興まちづくり便り」でお知らせしているように、現在各地区で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入ってまいります。そのことについて、あなたの考えをお書きください。

災害に強い街づくりは勿論これからの若い人たちが地元に残り働ける場所の確保、都の歴史。特性を生かした活用を行政におねがいます。 (60歳代 男性)

市民への説明会ではまず住居防災システム・そして雇用、産業、観光とか具体的に説明して欲しい、住居問題以外は時間かけ考えても素適な街づくりを期待しています。 (60歳代 女性)

どこでどのように検討会が開催されているのか良く分かりません。他人ごとではなく積極的に復興に参加させて痛ければと思います。また世代別の意見を聴く機会が必要と思われます。元の形に戻すのではなく、長い将来を見据えての復興を望みます。 (50歳代 女性)

「地区復興まちづくりの会」構成メンバーについてどのような基準で選考しているか知る由もないが、もし、構成メンバーが高齢者又は、高年齢者が主流となっているのであれば極めて不安である。未来のまちづくりを考えるのであれば、担い手である児童生徒の提案が必要不可欠と考える。学校教育の現場に協力を頂き作文などの形で提案を求めたらどうですか？ (60歳代 男性)

津波により、宮古橋（旧橋）～小山田橋付近までの閉伊川の堤防（南町～宮町地域）を超えての浸水があった。堤防の嵩上げを考えてほしい。非常に不安な気持ちで住んでいる。 (30歳代 男性)

現在各地で「地区復興街づくりの会」が開催され、今後地区別の具体的な検討に入ってまいりますがこの表示について地区民の討議をしながら相談しなくてはならないと思う。行政連絡員、分団の方が積極的に行動してほしい。 (60歳代 男性)

(2) 地区の復興まちづくりに関連して、あなたのお考えをお書きください。

末広町に関しては現在の場所を一箇所で用が済ませられるような街づくり。防災施設を強化しコミュニティを考えた商店街。  
(60 歳代 男性)

新川町は大潮満潮時は浸水の状況。勿論高台を望むが必ずしも高台とは考えず南西北側と最も職場に近い高台を選択されても良いのでは。通勤時のラッシュも少しは緩和される、因みに職場は津軽石ですが 45 号線は混んで時間がかかる津波を考えた場合裏街道の道と住宅が安全。かと言って以前住んでいた所から遠く離れがたく中間の八木沢・磯鷄地区が望ましい。高浜、金浜、その南の山はあまり険しくない山並みで平らにして街が出来そう。嵩上げ堤防の延長高さ等はあまり賛成できない、時間と費用がかかり過ぎそう。  
(60 歳代 男性)

市街地を賑わう街にするために観光地として魚市場を駅の近くに移動し観光客を街にゆったり歩いて、お土産を買ったり、食堂・喫茶店などに入れるようにしてはどうでしょうか？中央に皆の広場のようにイベントやミニコンサートが出来ても良いのでは。検討会のメンバーになるためにはどうしたら良いのでしょうか？自然エネルギーについて、自然がいっぱいの宮古市の良いところを十分に生かし共に観光の名所にしてはどうでしょうか。川井のタイマクラ。新見地区などいろいろな素晴らしい所が一杯有ると思います。  
(50 歳代 女性)

3. 11 災害時には、90 歳の母はトイレの関係から飲水を我慢し、胆石を発症、又、佐原の市営アパートに住む娘は 0 歳児（生後 4 ヶ月）を抱え、ミルクや水、米が底をついた。宮古病院に入院させるのも、佐原に粉ミルク、水、米を届けるのも常安寺の交通規制遮断によって搬送ができなかった。速やかに市街地（消防庁舎）と宮古病院を最短でつくアクセスルートを開設すべきである。  
(60 歳代 男性)

安心を与えてくれる町にしたい。（してほしい。）  
(30 歳代 男性)

- ・ 山口川を BOX にして、その上を道路にして欲しい。避難道路として利用ができる。
  - ・ 建物の構造規制を伴う場合、金銭的補助制度をつくってほしい。
  - ・ 防潮堤の天端に 2m おき程度にポールを建てて、ワイヤーを張り津波時のガレキ、船、車の流入を防ぐ。
- (80 歳代 男性)

末広町、中央商店街に挟まれた当商店街は解体が 3 件、廃業が 3 件で商店街と言えなくなってしまうこのうち駐車場が 2 か所になっている。復興、復興とみなさん叫んでいるが私は商店街の復旧が先で中心市街地には食料品等物販の店も僅かで住民がすごく不便しています。店舗等の建築は装柱に検討してください、商店街が並ばなければ復興は遠いものになり賑やかさ戻らないと思う。  
(60 歳代 男性)

3. 「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）」の自由記入より抜粋

大分類	中分類	意見
防潮堤等の施設について	防潮堤	市内に第2防潮堤的なものを考えてはいかがなものでしょうか。
		市内でも市役所前の防波堤があったが為に大きな被害は受けたが防波堤がなかったらこんな被害どころではなかったと思う。
		自然の力を甘くみないでしっかりと少しずつでもいいから壊れない防潮堤を作る。
		防潮堤や湾口防波堤などの復旧をより安全にしてほしい。二重防潮堤、二重湾口防波堤にしてほしい。家の移転は金がかかるから。
		防潮堤や水門が壊れたままだと、津波注意報が出るたびに本当に不安なので、そちらの整備も早く進めていただきたいです。
		今までの防潮堤を越えた最高の津波を考慮して防ぐだけの高さや強さを考えた防潮堤を作り、上を道路として使用できるような防潮堤を築いてもらいたい。
		臨港線跡地に十数年前からの高い防潮堤の計画が確実に実行されていれば、市役所をはじめ周辺の被害も死者の多数も出なかったと考えます。
		海岸側に道路付きスーパー堤防を創る。
	水門	閉伊崎の宮古湾寄りと日立浜の館ヶ崎に巨大水門を創る。
		強固な水門の整備。
	河川	山口川の補強工事を去年着工していなかったら、この町はどうなっていたのだろうとぞっとした。
	国道等	宮古から仙台への三陸街道の早期完成
	県道、市道	道路の巾を上げ大型バスが来て浄土ヶ浜を観光できる様に。
		震災時、宮古病院へ向かう道が1本しかない事で様々な問題が起きた。近内を通って宮古病院へ抜ける道路の完成を急いでほしい。
		駅からバス、電車を利用して病院へ通院の年配者の方が大変そうに見られます。大通路も人々が楽に歩けるようにして下さい。
		三陸自動車道と106号線の整備は第一番目に着手して貰いたい事業です。
	避難路	藤原の歩道橋付近から築地に第2大橋を創る。
		地震の時避難できるよう、道路の巾を大きくとって欲しい。 避難道路は中央通の後の山道を利用し常安寺や判官神社から高台へ整備しておく。
	公共交通	三鉄と山田線の早期の復旧を。
		宮古駅と千徳駅との間に真っ直ぐの山田線が通っている。この線路を迂回させれば交通の利便性が高まる。
	公共施設	今の宮古の大型公共施設は場所がバラバラで離れているため市民の使用度が薄いのではないか。
		市役所など市の施設は津波の来ないところに建てるべき
		市役所本庁舎は地域の避難防災施設として整備し、津波浸水区域外に設置する。 周辺の住民を残しての市役所の移転は反対。離れた避難場所より近くの高所が必要。
	公営住宅	公営・市営住宅が必要になると思います。
		県営住宅及び雇用促進住宅等は、かなり老朽化が目につくので、新しく建て直して仮設住宅に入っている人達を入居させるようにしてはどうか。
		公営住宅については高齢者用として設備を揃えてもらいたい。
		市営住宅の建設は入居者のみに多額の税金を使い不公平である。住居が必要な方には民営住宅に対する補助や支援にすれば民業圧迫にならない。
	復興まちづくりについて	次の世代に禍根を残さないような街作りに。市民も行政も時間はかかると思いますが、熟慮して行って安心安全な街作りをしてほしい。
		宮古は海・山・里の自然に恵まれているが、何より人に恵まれている。人を育て育み続けていけば、この地は永遠に栄えるであろうと考える。
自然保護と都市開発（観光資源開発）は相反する問題ではあるが、両立させている都市から学んで、宮古の将来像に役立てるべきだ。		
市が運営する遊園地や水族館など景観に頼る観光から総合的なレジャー施設を利用する観光になればいいと思う。		

大分類	中分類	意見
復興まちづくりについて	情報提供	市民とのコンセンサスを得られる様PRをする。
	復興パターンについて	思い切って脇の山を削り、低い所を埋め、宅地が倍にならないか。こんな時だから思い切ったの事業が有効と思う。
		今回浸水した地域には、商店、住居はなるべく避ける形で都市計画をして欲しい。 市役所を中心に、公共施設、商店街等あれば、高齢者にも優しい街です。海から離れていけば、安全で、災害時にも業務停止せずに対応出来ます。
事業手法について	防災対策	こんなにも宮古市の危機管理対策は脆いものだったのですか。安心・安全な街づくりをしてほしいです。
		いざという時のために避難所の整備をすることだと思う。
		避難ルートの徹底と町内のコミュニケーションの活性化
		宮古市が作成したハザードマップの信頼性が裏付けられた。大通1丁目はほぼ1mの浸水とのことだったので、対策が取れたのかもしれない。
		避難タワーは極力作らない方が良い。津波の高さは想定外。各自高台に避難する事。
		地震・津波のみならず、他の風水害等についても防災訓練の徹底、避難場所、避難ルートの整備等を推進するべきです。
		防災行政無線どこでもハッキリと聞こえるようにして欲しい。
	外部車両の危険区域への侵入を避けるための誘導を徹底して下さい。	
	高台移転	中途半端な移転ではなく、高台の大きな町づくりを。これを機にモデル市とも云える様な市をつくって欲しいものです。
	面的嵩上げ	地盤沈下が大きいので早期復旧。
共同住宅	現在どの不動産屋さんに行っても物件が全くなく、浸水地域から脱出したくても出来ない状況が続いているので、賃貸物件を早く増やしていただきたい。	
浸水区域内の土地・建物について	個別再建について	住居がなくなり再建しようと考えているが、土地取得の費用がないので、震災前の敷地に建てるしかありません。
		隣近所が解体が多くなり物騒で一日も早く、住宅建築の許可等決定出来る事を望む。町内の方々は自分の住む場所（旧）を希望していると思う。
		工場の復興は、長くても1年ぐらいでやらないと出来る仕事が少なくなって、大変です。
		店の復旧には援助金などは出ないのでしょうか。
	土地の利用	大きな建物がなくなったあと、公園のようないいこの場で、人が集まってくるようにしたらどうでしょう。
	既存不適格	流失した土地には家は作らないほうがいいと思うが。
		床上浸水で現在自宅を修理して住んでいますが、この場所に住み続けて良いものなのか。また津波の被害にあうのではないかと大変心配です。
	売却	今までのところに住宅を建てられない時は土地を買い上げて頂きたい。
		宮古に住むのが不安だと思う人もいると思うから、個人が好きな所に住めるように、強制的に住む場所は決めなくても良いと思う。
	権利	被災した不動産の抵当権の抹消に不安がある。
市内に解体可の文字がやたらと見受けられますが補修すればまだまだ住み使われそうな建屋があります。どうして解体してしまうのか。		